

2026年度 郡山女子大学入学者選抜における 入学者受入方針および入試内容等について (アドミッション・ポリシー)

【基本方針】

本学の入学者選抜は「建学の精神」に基づき、生徒が高等学校段階までに身につけた力を本学において発展・向上させ、社会へ送り出すという大学教育の一貫したプロセスを前提として、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)や教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ定める入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、本学において学修し、卒業するために、大学への入口段階で入学者に必要な能力・適性等を多面的・総合的に評価・判断することを役割とするものです。

あわせて本学の入学者選抜は、高等学校における教育と大学における教育を接続する教育の一環として実施するものです。

能力・意欲・適性等の評価・判定にあたっては、アドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する特に重要な以下の三つの要素のそれぞれを適切に把握するよう十分留意します。なお、高等学校の学科ごとの特性にも配慮します。

- ①知識・技能(基礎的・基本的な知識・技能)
- ②思考力・判断力・表現力(知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力)
- ③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

本学の選抜においては、学力の3要素を多面的・総合的に評価するために、基礎能力調査、調査書、活動報告書、入学希望理由書等出願時における書類、面接、小論文、プレゼンテーションを実施します。また、選抜に関し、以下のことを追加事項とします。

- 「知識・技能」を評価する観点から、入学後、大学教育を学ぶために必要な学力を有していることを出願要件とします。学校推薦型選抜においては、面接と基礎能力調査を行い、評価します。
- 「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する観点から面接(一般選抜および大学入学共通テスト利用選抜を除く)を行います。また、一般選抜においては、個別学力試験で記述式問題を出題します。総合型選抜においては、オープンキャンパス等に行う面接において、相談カルテを作成し対応します。
- 「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する観点から、「入学希望理由書」、「活動報告書」および「調査書」等の提出を求めます。資格や校内・校外活動における目的や意欲を評価します。

人材養成の目的 3つの方針

- 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)
- 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)
- 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

建学の精神

尊 敬	責 任	自 由
お互いの個性を尊重し、敬愛できる豊かな人柄を創ること。そして他者においてそれを認めること。	人間として存在するためには責任ある行動で社会への自覚をもちうること。	学園の規則を守りながら、個人の求める、あらゆる自由な発想と研究とで個性豊かな人格を作ること。

入学者選抜の実施方針

本学は、学力を構成する重要な要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施します。

2026年度より、家政学部は生活科学部に学部名変更となります。

生活科学科

入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

生活科学科は、人間の健全な生活の実現を共通の目的として、社会福祉と建築デザインの分野について、専門的かつ融合的に学ぶことにより、地域における福祉と建築に関する課題の解決に取り組み、地域の活性化に資する福祉と建築の専門的人材を養成し、定着させ、地域の復興、創生に寄与することを教育目的とします。

社会福祉専攻

社会福祉には、人々の権利を護り、幸福な生活を追求し、家庭および地域社会で暮らし続けることを支える役割があります。

社会福祉専攻では、少子高齢化により発生している課題をはじめ、障がい者(児)福祉、児童家庭福祉、地域福祉など幅広い分野の知識を学び、複合化・複雑化している福祉ニーズに対応できる実践力を有する社会福祉士(ソーシャルワーカー)、福祉の高度な専門知識とケアマネジメント力をもつ介護福祉士を養成するための教育・研究を行います。さらに、多様化する広い生活領域を学び、生活者の視点から、安全で安心な生活を創造し、地域社会へ貢献することができる自立した女性の育成をめざしています。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

1. 求める学生像

- 社会福祉に関する地域の諸問題について興味を持ち、知的感性を磨いていく意欲のある人。(思考力・判断力・表現力)
- コミュニケーション能力の向上に意欲を持って取り組める人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 主体性を持って他者への支援を行う意欲と、地域社会へ貢献する意欲を持つ人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 社会福祉士、介護福祉士、中学校・高等学校家庭科教諭、特別支援学校教諭などの資格取得を希望し、福祉や家政学の専門的知識・技術を修得する意欲のある人。(知識・技能)

2. 求める学習の成果

- 現代社会が抱える福祉の諸問題に関心を持ち、それらを解決するため、幅広い分野の基礎知識を習得していること。
- 対人援助の専門職として必要となるコミュニケーション能力を有していること。
- レポートや実習日誌等の作成、専門書の読解力等、学士課程教育を学ぶために必要な基礎学力(国語、外国語)を有しているとともに、基本的な概念を理解し、社会的事象に対しては、論理的に考察できる能力を有していること。

- 高等学校等において、明確な目的意識をもって主体的に学び、他者と協調・協働して活動に取り組む経験をしていること。

入試形態ごとの入学者に求める能力とその選抜方法、評価方法(学力の3要素を踏まえた評価)。

総合型選抜

【総合型選抜の志願者に求める受入方針】

上記、学科の受入方針とともに、本学で学ぶ強い意欲があり福祉や教育分野に高い関心を持ち、学びを深める探究学習や実践としての社会活動等を行い、入学後も福祉や教育分野への課題意識を持って探究し、その解決策を論理的に表現できる人材を求めます。

- 面接において、本学科各専攻の特性に合う「思考力、判断力、表現力」を観点にして評価します。またアドミッション・ポリシーの適合性も評価します。
- 出願書類(調査書、入学希望理由書、活動報告書等)において、内容とアドミッション・ポリシーとの整合性の観点から主体性等を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 課題のプレゼンテーションにおいて、「基礎学力(知識・技能)」を観点にして課題に対する知識が備わっているか評価するとともに「思考力・表現力」を評価します。
- オープンキャンパス等における学科個別相談で記載の「相談カルテ」は、面接の参考資料として活用します。

学校推薦型選抜

【学校推薦型選抜の志願者に求める受入方針】

上記、学科の受入方針とともに、大学の学びに必要な基礎学力を習得し、福祉や教育分野に意欲を持って主体的に学習する姿勢を有している人材を求めます。

- 出願書類(調査書、入学希望理由書、活動報告書等)において、内容とアドミッション・ポリシーとの整合性の観点から主体性等を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 面接において、「思考力、判断力、表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働しつつ学習する態度」、「アドミッション・ポリシーとの整合性」の点から評価します。なお、出願書類にある入学希望理由書は面接における参考とします。
- 基礎能力調査において基礎知識と思考力、判断力を評価します。

一般選抜

- 出願書類(調査書等)において、「主体性を持って多様な人々と協働しつつ学習する態度」を評価します。
- 個別学力試験において、学科の特性に合う基礎知識と思考力・判断力を独自の学力試験(国語または外国語)で評価します。

大学入学共通テスト利用選抜

- 社会福祉専攻では「国語力」「英語力」より、知識と思考力、判断力を大学入学共通テストを用い、「国語」「外国語」のいずれかの高得点の教科で評価します。
- 出願書類(調査書等)において、「主体性を持って多様な人々と協働しつつ学習する態度」を評価します。

建築デザイン専攻

建築物は、人々が安全で快適に生活することができる空間であるとともに、その地域の文化、歴史、自然等を踏まえた高いデザイン性を有している必要があります。

建築デザイン専攻では、人間生活の器である建物の本質的な意味を理解し、女性の感性を活かし、人と自然の共生を可能にする住環境を柔軟に創造できる能力を有する建築設計者・技術者を養成するための教育・研究を行います。

そのために、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を受け入れます。

1. 求める学生像

- 社会的諸問題と建築や人間生活の関わりについて興味を持ち、知的感性を磨いていく意欲のある人。(思考力・判断力・表現力)
- コミュニケーション能力の向上に意欲を持って取り組める人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 快適な建築空間を創造し、ものづくりに対して豊かな発想で取り組める人。(思考力・判断力・表現力)
- 建築学を学ぶための基礎学力を有し、建築士を志す人。(知識・技能)

2. 求める学習の成果

- 現代社会が抱える諸問題を解決するため、幅広い分野の基礎知識を習得していること。
- 高等学校等において、明確な目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢を経験していること。
- 家政学と建築学を中心とする学士課程教育を学ぶために必要な基礎学力(国語、外国語、数学)を有するとともに、基本的な概念を理解し、社会的事象に対しては、論理的に考察できる能力を有していること。

入試形態ごとの入学者に求める能力とその選抜方法、評価方法(学力の3要素を踏まえた評価)。

総合型選抜

【総合型選抜の志願者に求める受入方針】

上記、学科の受入方針とともに、本学で学ぶ強い意欲があり建築デザイン分野に高い関心を持ち、学びを深める探究学習や実践としての社会活動等を行い、入学後も建築デザイン分野への課題意識を持って探究し、その解決策を論理的に表現できる人材を求めます。

- 面接において、本学科各専攻の特性に合う「思考力、判断力、表現力」を観点にして評価します。またアドミッション・ポリシーの適合性も評価します。
- 出願書類(調査書、入学希望理由書、活動報告書等)において、内容とアドミッション・ポリシーとの整合性の観点から主体性等を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。
- 課題のプレゼンテーションにおいて、「基礎学力(知識・技能)」を観点にして課題に対する知識が備わっているか評価するとともに「思考力・表現力」を評価します。
- オープンキャンパス等における学科個別相談で記載の「相談カルテ」は、面接の参考資料として活用します。

学校推薦型選抜

【学校推薦型選抜の志願者に求める受入方針】

上記、学科の受入方針とともに、大学の学びに必要な基礎学力を習得し、建築デザイン分野に意欲を持って主体的に学習する姿勢を有している人材を求めます。

- 出願書類(調査書、入学希望理由書、活動報告書等)において、内容とアドミッション・ポリシーとの整合性の観点から主体性等を評価します。また調査書の評定平均値を数値化して評価します。

- 面接において、「思考力、判断力、表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働しつつ学習する態度」、「アドミッション・ポリシーとの整合性」の点から評価します。なお、出願書類にある入学希望理由書は面接における参考とします。
- 基礎能力調査において基礎知識と思考力、判断力を評価します。

一般選抜

- 出願書類(調査書等)において、「主体性を持って多様な人々と協働しつつ学習する態度」を評価します。
- 個別学力試験において、学科の特性に合う基礎知識と思考力・判断力を独自の学力試験(国語または外国語、数学いずれか1教科選択)で評価します。

大学入学共通テスト利用選抜

- 建築デザイン専攻では「国語力」「数学力」「英語力」より、知識と思考力、判断力を大学入学共通テストを用い、「国語」「数学」「外国語」のいずれかの高得点の教科で評価します。
- 出願書類(調査書等)において、「主体性を持って多様な人々と協働しつつ学習する態度」を評価します。

教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

生活科学科は、人が人らしく生きることができる世界の創造を追求することの実現を目指して、人間生活の向上と社会の発展に寄与する人材を養成することを教育目的としています。これを達成すべく、人間生活に関して総合的かつ専門的に学べる教育課程を編成しています。具体的には、社会福祉専攻と建築デザイン専攻の2専攻を編成し、それぞれが独自の専門性を追求できる教育課程となっています。

(1) 専門科目と共通基礎科目について

- 1) 人間生活の総体を学ぶにあたって、人間学系、生活学系、生活科学系という3学系を設け、それぞれの専門科目群を総合的かつ体系的に編成しています。専門性をさらに高めるために、3年、4年の2か年にわたる卒業研究があります。
- 2) 専門科目は、高い教養のある人材の養成のために、また基礎専門科目としても、共通基礎科目との間で体系的に編成しています。
- 3) 教養教育を重視し、人間学系、生活学系、生活科学系の3学系を、人文、社会、自然の3分野に対応させています。それゆえ、2専攻の専門科目は専門教育でありながらも、そのベースには、教養教育を内在しています。

以上の教育課程の編成方針に基づき、社会福祉専攻、建築デザイン専攻の教育課程を編成しています。

社会福祉専攻

(1) 人材養成上の目的

社会福祉と介護福祉に関する専門知識と技術を学修し、社会福祉に関する相談援助および介護に関する援助指導の実践能力を有する福祉専門家を養成することが目的であり、社会福祉士および介護福祉士国家試験受験資格、中学校・高等学校教諭(家庭)、特別支援学校教諭の免許状を取得することが可能な教育課程となっています。

(2) 教育課程の概要

- 1) 広い視野と高度な福祉専門性を獲得した社会福祉士・介護福祉士を養成すべく、専門科目は3つの学系を有し、その中でも特に生活学系を中心としています。生活学系は、家政学原論を基盤として、社会福祉関係、介護福祉関係の科目を設定しています。生活科学系は衣生活関係、食生活関係、住生活関係の科目(介護福祉必修科目を含む)を設定しています。これに卒業研究を加え構成しています。

(2) 教育課程の全体構造は、目的と手段の構図である。

目的は「人間生活の向上と社会の発展に寄与できる人材の養成」であり、それに至るための手段は、人間学系・生活学系・生活科学系の3学系にわたる「専門科目」と「共通基礎科目」の学びです。

- 1) 特に専門科目においては、理論を活用する実践力の育成を目指しています。実践力の育成のために、各種の実習・実技、その他に各種の施設・現場の視察・見学、講演会、地域交流活動などがあります。
- 2) 人間学系、生活学系、生活科学系の3学系にわたる広い専門科目の編成は、今日の大学教育の内容として要請されている「課題探究能力」(自ら将来の課題を探究し、その課題に対して、広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる能力、つまり知の実践力・社会貢献力)の育成に適合するものです。

- 2) 介護福祉士養成関係科目は主に1年～2年次にわたって開講し、社会福祉士養成関係科目は主に3年～4年次前期にかけて開講しています。カリキュラム全体としては、具体的認識を基盤にして理論や制度の理解に進む順次性を持っています。
- 3) 介護の基本、生活支援技術、介護過程、介護総合演習、介護実習、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワーク演習・実習指導・実習などの科目は、学年進行に応じて系統的に設定され、社会福祉および介護福祉に関する専門的知識と技術を合理的に修得し、体系だった理解を構築することを目指しています。
- 4) 社会福祉士および介護福祉士としての実践能力は、主としてソーシャルワーク実習や介護実習によって育成します。
- 5) 中学校・高等学校教諭(家庭)および特別支援学校教諭の免許状取得に必要な専門科目は、専攻の専門科目として設定しています。

建築デザイン専攻

(1) 人材養成上の目的

住生活のあり方および建築物の本質を探究し、専門知識と技術と実践力を有し、自然との共生可能な住環境を創造できる建築専門家を養成することが目的であり、一級建築士、二級建築士国家試験受験資格、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター、商業施設士、中学校・高等学校教諭(家庭)、高等学校教諭(工業)、特別支援学校教諭の資格・免許状の取得が可能な教育課程となっています。

(2) 教育課程の概要

- 1) 専門科目は3つの学系を有しながらも、技術の理論的支柱を重視して、特に生活科学系が中心となっています。生活学系は、家政学原論、生活経営学において家・住まいの本質にかかわる「住むこと」の人間学的意味を理解します。生活科学系には、衣生活・食生活関係科目、住生活・建築関係科目、環境関係科目を開設しています。加えて職業指導科目があります。そして、獲得した知の総合と表現を目指して、卒業研究があります。

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

生活科学科では、別に定める卒業要件を満たした学生に学士(家政学)の学位を授与し、以下の知識、能力、態度が身についていることを保証します。生活科学科の教育目的を達成するために、ディプロマ・ポリシーを次の通り定めています。

1. 人間を護り、人間生活の向上と社会の発展を目指し、福祉・建築・生活のそれぞれの専門分野で、人文・社会・自然にわたる基礎的知識を総合的に用いつつ、それぞれの専門知識と技術を修得し、それらを活用できる。(知識・理解)
2. 高い教養と広範な専門性に基づき、広い視野に立って物事を柔軟かつ総合的に判断し、現代の福祉・建築・生活をめぐる諸課題を発見し、分析し、解決する能力を身につけている。(課題探究力・問題解決力)
3. 「建学の精神」—尊敬・責任・自由—により、人間として人格形成を志向し、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会的責任を果たすことができる。(志向性、社会的責任)
4. 学修や実習などによる総合的経験や横断的思考力を活かして、地域社会における福祉・建築・生活に関する諸問題に新たな発想で取り組むことができる。(総合的な学習経験、創造的思考力)
5. 達成度評価については、GPA1.8以上を基準値とする。(達成度の評価)

社会福祉専攻

1. 社会福祉や介護福祉、教育の3領域において、それぞれに必要な広範な専門的知識と技術を修得し、それらに応用できる。(知識・理解)
2. 基礎知識と専門的知識により、高齢者や障がい者(児)などを取り巻く社会環境を多面的かつ総合的に把握し、社会福祉および介護福祉、教育をめぐる様々な問題に対処できる論理的思考力と問題解決へ導く能力を身につけている。(論理的思考力、問題解決力)
3. 他者を援助し、他者と協調できる人格形成を志向し、社会的責任を果たそうとする態度と倫理観を身につけている。(倫理観、社会的責任)
4. 実習、地域交流活動、卒業研究などによる総合的経験と横断的思考力を活かして、地域の福祉や生活をめぐる課題を解決する能力を身につけている。(総合的な学習経験、創造的思考力)

建築デザイン専攻

1. 建築分野において、一級建築士および二級建築士、その他の建築関係資格取得者として必要な広範な専門的知識と技術を修得し、それらを活用できる。(知識・理解)
2. 基礎知識と専門的知識により、住居や建築に関する問題を科学的根拠に基づいて論理的に思考し、解決できる。(論理的思考力、問題解決力)
3. 自然を尊重し、自然と共生可能な住環境の創造を志向し、人間と社会と自然の永続的存続という社会的責任を果たすことができる。(倫理観、社会的責任)
4. 建築物の視察、建築現場の視察・研修、卒業研究などによる総合的経験を活かし、地域の建築が抱える課題を広い知性と新たな発想で解決できる能力を身につけている。(総合的な学習経験、創造的思考力)

GPA制度について

成績評価方式「GPA」(Grade Point Average)を導入しています。修得単位数という「量」のみだけではなく、学修の「質」を重視するためのものです。

試験で評価された点数が80点であれば、成績評価基準の表よりGPが「3」となります。仮に単位数が「2」とすると、以下ようになります。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{修得単位数:2}) \times (\text{GP:3})}{(\text{総登録単位数:2})}$$

上記の式の結果により、GPAは3となります。
実際は複数の科目を履修しますので、少し複雑になっていきますが、良い成績が取れるよう努力をする必要があります。詳細は、入学後に配付される「単位履修の手引き」を確認してください。

●成績評価基準

評価区分	評価記号と評価内容	付加するGP
100～90点	S:特に優れた成績	4
89～80点	A:優れた成績	3
79～70点	B:努力が必要な成績	2
69～60点	C:最低限度の成績	1
59～0点	F:否とされた成績	0
N:認定のみの科目(GPの対象とせず)		なし

入学者受入方針

(アドミッション・ポリシー)

食物栄養学科では、食と健康のスペシャリストとして人々の健康を食から支える管理栄養士、栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員、食品衛生管理者の養成を目的とし、幅広い専門知識と技術を身につけ、社会の発展に貢献できる人材を育成します。

1. 求める学生像

- 食と健康に強い関心を持って意欲的に学修する人。食物栄養学科の基礎となる特に理数系科目の学力を身につけた人。(知識・技能)
- 身につけた知識を、活用できる人。コミュニケーション能力を持っている人。(思考力・判断力・表現力)
- 健康の維持・増進、疾病の予防と回復などについて多様な人々と協働して、人の役に立つ仕事をしたい人。管理栄養士を目指して不断の努力ができる人。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

2. 求める学習の成果

- 高等学校で学ぶ教科の知識・技能を習得しておくこと。
- 他者の話や文章、データ等を理解すること、自分の考えをまとめること、他者とのコミュニケーション能力を備えていること。
- 高等学校における教育活動や社会におけるボランティア活動を通して、多様な人々と積極的に協働することができること。

総合型選抜

〔総合型選抜の志願者に求める受入方針〕

上記、学科の受入方針とともに、食と健康に関わる学習活動やボランティア活動等、高校時代の活動実績をプレゼンテーションや面接、活動報告書等で大いにアピールできる人材を求めます。

- 面接において「建学の精神」に対する理解を評価します。志望動機や将来の展望が明確であるか評価します。高校時代に取り組んだ食に関する活動や関心事について評価します。
- 出願書類(調査書、活動報告書等)において、調査書の評定平均値を数値化して評価します。各種検定の結果や部活動およびボランティア活動について評価します。
- プレゼンテーションにおいて、課題に対する基礎知識が備わっているか評価します。自分の考えをまとめて他者に伝えることができる、コミュニケーション能力を評価します。
- 基礎力検査において、生物や化学の基礎知識や基本的な計算能力を評価します。
- オープンキャンパスにおける学科個別相談で記載の「相談カルテ」は、面接の参考資料として活用します。
- 「入学希望理由書」については、面接における参考にします。

学校推薦型選抜

〔学校推薦型選抜の志願者に求める受入方針〕

上記、学科の受入方針とともに、高校時代に基礎学力(特に理数系科目)を身につけ、管理栄養士を目指して主体的に学習する意欲のある、出身高等学校長が推薦する人材を求めます。

- 面接において「建学の精神」に対する理解を評価します。志望動機や将来の展望が明確であるか評価します。高校時代に取り組んだ食に関する活動や関心事について評価します。

一般選抜

- 個別学力試験において、国語・外国語・数学・理科(化学基礎もしくは生物基礎のいずれかを選択し、事前申請する)の基礎知識と思考力を学力試験で評価します。

大学入学共通テスト利用選抜

- 大学入学共通テストにおいて、国語・外国語・数学、生物や化学の基礎知識と思考力を学力試験で評価します。

教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

国民の健康づくりを支える食と健康の専門家として、高度な知識と実践的
技能を修得した管理栄養士・栄養士を養成することを目標としています。
進級要件を満たして進級し、GPAを更に向上させて、資格取得のために
不断の努力を継続することが肝要です。

1. 1年次には食と栄養並びに人体に関する基礎的な
専門科目を学修します。併行して共通基礎科目と自然
科学系の専門基礎分野の科目を中心として学びます。
2. 2年次には専門科目の中でも基礎的な内容が主と
なる専門基礎分野の科目を主体とし、実験や実習科目を
多く学びます。
3. 3年次には実習科目が多くなり、その仕上げとして管理
栄養士・食品衛生などの業務を実体験する学外実習を
実施します。
4. 4年次には食と健康に関する専門教育として、研究心を
もって社会に貢献するよう卒業研究に取り組みます。
そのほか、少数の専門科目、管理栄養士国家試験の
準備を行う特別演習を履修します。
5. 本学科を卒業すると栄養士免許とともに、食品衛生
管理者並びに食品衛生監視員の任用資格が付与され
ます。さらに指定された単位を修得すると管理栄養士
国家試験受験資格が得られます。
6. 教職課程の科目を履修すると、栄養教諭一種免許状が
得られます。

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

本学科所定の単位を修得し、以下の知識、能力等を身につけた学生に
対して卒業を認定し、学士(家政学)の学位を授与します。学位授与の基準と
なる学修成績はGPA2.0以上を原則とします。

1. 管理栄養士を目指して、十分に研鑽を積んでいる。
2. 栄養士として必要な知識・技能を有しており、自らの食生活に応用することができる。
3. 食、栄養や健康に関わる知識と技術を社会で応用できる。
4. 新しいIT技術の習得やコミュニケーション能力の向上に務める。
5. 食と健康の専門的職業人としての責任感を養う。
6. 食品衛生の専門家(食品衛生管理者・食品衛生監視員、いずれも任用資格)として、食品の製造加工の過程に
おける衛生上の管理と指導ができる。

GPA制度について

成績評価方式「GPA」(Grade Point Average)を導入しています。修得単位数という
「量」のみだけでなく、学修の「質」を重視するためのものです。

試験で評価された点数が80点であれば、成績評価基準の表よりGPが「3」となります。仮に単位数が「2」と
すると、以下ようになります。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{修得単位数:2}) \times (\text{GP:3})}{(\text{総登録単位数:2})}$$

上記の式の結果により、GPAは3となります。
実際は複数の科目を履修しますので、少し複雑になって
いきますが、良い成績が取れるよう努力をする必要が
あります。詳細は、入学後に配付される「単位履修の
手引き」を確認してください。

●成績評価基準

評価区分	評価記号と評価内容	付加するGP
100～90点	S:特に優れた成績	4
89～80点	A:優れた成績	3
79～70点	B:努力が必要な成績	2
69～60点	C:最低限度の成績	1
59～0点	F:否とされた成績	0
N:認定のみの科目(GPの対象とせず)		なし

Memo